

ロータリー報告書 2023 年 7 月 横田圭祐
チューリッヒ大学大学院 データサイエンス専攻

チューリッヒ大学大学院でデータサイエンスを専攻している横田圭祐です。

学期中の報告書の提出をお待ちいただき大変ありがとうございます。先日 2 学期のすべての授業と試験が終わりました。2 学期は大変成長を感じそして、自信がついた学期になりました。本書では成長を感じた 2 つの面について報告させていただきます。

今学期履修した授業の中で最も学びを感じた授業はセミナー授業でした。これは 15 人程度の少人数の授業で、各個人にテーマが与えられ論文を執筆し、その論文の内容を皆の前でプレゼンするという内容でした。私のテーマは「データ主導の政策決定の利点と問題について明らかにする」ことでした。このテーマに取り掛かるにあたって、50 本以上の論文を読みそれらを構造的に分析し利点と問題点を洗い出しました。そうして、出来上がった論文は 16 ページを超え、プレゼンテーションは質疑応答を含めて 45 分間でした。当たり前ですが、これらをすべて英語で行う必要があります。作業の開始時には何からどう始めていけば良いのかも漠然としていましたが、なんとか自分で考え抜きアドバイザーに頼ることも最小限にとどめてやり抜くことができました。その結果、論文もプレゼンテーションも高い評価をいただくことができました。構造立てて考え抜き物事を論理的に考える力やそれを他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーション力は海外の大学院でも通用することがわかりかなりの自信ができました。

成長を感じた 2 つ目の点はグループワークです。私が所属するチューリッヒ大学では多くの授業でグループワークが課されます。1 学期目からグループワークはいくつかありましたが、1 学期目は他者の指示を待ちその指示を確実に実行することでチーム貢献するということが多かったです。しかし、1 学期が終わる頃には英語でディスカッションすることにも慣れ、だんだんと自分の意見を発言できるようになりました。そして、1 学期目のように他のグループメンバーに頼り切ることなく、自分がチームのリーダーとして議論の進行や、タイムスケジュールをするようになりました。その結果、チームの成果物が高く評価されることや、他のチームメンバーから頼られる場面が増えました。これらの経験を通じて、自分が日本で発揮していたリーダーシップは海外でも通用すると気づき大きな自信につながりました。

大きな学びがあった 2 学期が終わりこれからは夏休みが始まります。まずは旅行に行きたいと思っています。スイスはヨーロッパの中心に位置しておりいろいろな国

に行きやすいです。訪れた国の感想や写真については8月の報告書でお伝えさせていただきます。そして、夏休みには旅行だけでなくプロジェクトに取り組めます。このプロジェクトは私以外に2人のメンバーと取り組むグループプロジェクトです。期間は半年間と計画されています。テーマはプラットフォームの分析です。プラットフォームというと Uber や Airbnb などのシェアリングエコノミーが思いつきますが、それらは利益を優先しすぎるがあまりに労働者の権利が蔑ろにされている面があります。それを解決するために昨今注目を集めているのがプラットフォームコープです。こちらはプラットフォームの利用者が運営者となって利益を分配しながら運営するプラットフォームです。今回のプロジェクトではこのプラットフォームコープに焦点を当てて分析していく予定です。現段階ではプロジェクトが始まったばかりなので、プロジェクトの進捗に合わせて今後の報告書で随時現状をお知らせできればと思います。